

国際交流活動ニュース

MACROCOSM



CONTENTS

一般財団法人青少年国際交流推進センター理事長挨拶	2
一般財団法人青少年国際交流推進センター設立の背景と30年	3
国際理解教育支援プログラム	4
タイ王国・スタディツアー2025	6
イスラームを知ろう！～UAE現地体験スタディツアー～	8
イスラームを知ろう！～“イスラームが誇る美術に触れる”アラビア語書道体験～	9
イスラームを知ろう！～ムスリムってなに？マスジド大塚で出会う人と暮らし	9
「モスク見学／炊き出し支援」～	
国際交流リーダー養成セミナー	10
「違いを楽しむ」から始まる共創：インクルーシブな国際交流の場づくり	
2025年度 統計・DX次世代リーダー交流事業 NextStatX2025／	11
シンフォニカ統計職員招聘事業 運営支援	
青少年国際交流全国フォーラム／ブロックイベント	13
都道府県会員と（一財）青少年国際交流推進センターの共同主催事業／	14
内閣府の実施する青年国際交流事業への協力	

一般財団法人青少年国際交流推進センター理事長挨拶

昨年度を振り返ってみると、コロナ禍で滞っていた国際交流が本格的に再開した年でした。一般財団法人青少年国際交流推進センター（以下、推進センター）の自主事業としては、イスラームセミナーの一環で初のUAEスタディツアーを実施したのに引き続いて統計DX次世代交流事業としてラトビア青年の招へいプログラムを開始したのが特筆されるかと思います。内閣府の交流事業では、「東南アジア青年の船」事業で5年ぶりに海外航路による船上プログラムが復活し、「日本・中国青年親善交流事業」が招へいと派遣のパッケージのプログラムでしたが、久しぶりの対面交流再開となりました。



今年度も引き続きUAEスタディツアーとラトビア青年招へい事業を実施しましたが、これらの事業を含む自主事業について、内閣府の青年国際交流事業と共にその内容を本マクロコズムで記載しています。

IYEO（日本青年国際交流機構）は今年で40周年を迎えましたが、推進センターとしては、IYEOと密に連携しながら、内閣府の交流事業、事後活動支援や自主事業など様々な活動を通じて次世代を担う人材育成に一層力を尽くしていきたいと思っています。

さて、1990年の就航以来30年以上にわたって「東南アジア青年の船」事業と「世界青年の船」事業で活躍してきた「にっぽん丸」が、2026年の5月に退役することになり、昨年12月に「ありがとう。にっぽん丸」クルーズをIYEOと共催で実施しました。キャンセル待ちが出るほどの人気で、船上では在りし日を懐かしみながら「Onece in a life time experience again!」を楽しみ大いに盛り上がりました。参加していただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。就航以来、「東南アジア青年の船」事業と「世界青年の船」事業の両船の事業で日本と世界75か国1万6千人近くの青年が乗船しており、Ex-PY（既参加青年）の故郷として長く愛されてきた「にっぽん丸」が姿を消すのは寂しいことですが、長年にわたる事業を通じて培ってきた人的ネットワークを生かして、青年国際交流事業が長く継続することを願ってやみません。

IYEO設立40周年記念 「ありがとう。にっぽん丸」クルーズ

2025年12月18日～12月19日に、設立40周年を迎えたIYEOの今後の更なる発展を祝して、IYEO/推進センターで企画協力し、東武トップツアーズ旅行企画・実施による記念クルーズを実施しました。

2026年5月に退役するにっぽん丸を懐かしむIYEO会員及び御家族・御友人、更には海外からも約30名の既参加青年が参加し満室のにっぽん丸は12月18日夕刻に名古屋港を出港。夕食後、IYEO実行委員会がこの日の為に準備した数々のスペシャルナイトイベントが催されました。イベント後は星空観賞会やインターナショナルダンスパーティーが実施され、参加者各位は青年に戻ったように一刻も惜しむようににっぽん丸での時間を楽しみました。翌朝スポーツデッキにて全体集合写真を撮影し、9時に神戸港に着岸。参加者は昔の友人に会った喜びと共に、にっぽん丸を名残り惜しむ万感の思いと共に帰路につきました。



一般財団法人青少年国際交流推進センター 設立の背景と30年

2024年(令和6年)、一般財団法人青少年国際交流推進センター(以下、センター)は設立30周年を迎えましたが、今回、30年間の経過と共にセンター設立の背景を記載させていただきます。

■設立の背景

1985年(昭和60年)に青年国際交流事業の既参加青年による同窓会が「日本青年国際交流機構(IYEO)」として一本化された当時から、IYEOの事務局機能と交流事業遂行の受け皿として公益法人を設立したいという強い要望があったのを受けて、1994年(平成6年)に入り、総務庁青少年対策本部(当時)が中心となって公益法人設立に向けて設立準備委員会が発足しました。

当時の公益法人は、現在のように自律的に設立・運営ができる一般法人制度ではなく、民法に基づく旧制度下にあり、設立には所管大臣の認可が必要で、設立後も所管大臣による指導監督が行われるというものでした。

■高いハードルを乗り越えて

設立条件としては、事業の公益性はもとより、基本財産5千万円以上

と設立後の運営資金の確保という財政基盤について高いハードルが課せられており(現在は基本財産3百万円が財団の設立条件)、加えて公益法人について厳しい目が向けられている状況下、新設には強い抑制の力が働いていました。

このような状況の中で、推進センター設立への強い熱意を持つ関係者が奔走し、財団設立を応援してくれるIYEO関係者や民間企業からの寄付をもとに、基本財産と当面の運営に必要な資金を確保することができ、1994年(平成6年)4月に総務庁長官より設立の認可が下りました(初代会長:石川忠雄慶応大学塾長。初代理事長:山田馨司総務庁元事務次官)。その後、総務庁・総理府の関係では新設された公益法人(旧制度によるもの)はなかったと言われており、国やIYEO関係者の喜びと安堵も大きかったと推察されます。改めて、設立に向けて汗をかき尽力していただいた諸先輩やIYEO関係者の皆様に感謝したいと思います。

沿革

設立前

- 1959 上皇皇后陛下の御成婚記念事業として「青年海外派遣」事業開始
- 1961 既参加青年による「日本青年海外派遣青友会」発足
- 1967 総理府(現・内閣府)「青年の船」事業開始
- 1968 事後活動組織「青年の船の会」発足
- 1974 総理府(現・内閣府)「東南アジア青年の船」事業開始
- 1979 総理府(現・内閣府)日本・中国青年親善交流事業開始
- 1985 事後活動組織を統合し「日本青年国際交流機構」発足
- 1987 総務庁(現・内閣府)日本・韓国青年親善交流事業開始
- 1988 「世界青年の船」事業開始

1994

財団法人 青少年国際交流推進センター設立

天皇皇后陛下の御成婚記念事業として
総務庁(現・内閣府)国際青年育成交流事業開始

- 1995 総理府(現・内閣府)「戦後50年を記念する集い事業」に協力
- 1999 日中招へい・日韓招へい・「東南アジア青年の船」「世界青年の船」運営
- 2001 21世紀ルネサンス青年リーダー招へい事業 運営
- 2002 青年社会活動コアリーダー育成プログラム 運営
- 2003 「タイ王国・スタディツアー」開始
- 2004 「国際理解教育支援プログラム」開始
- 2007 日本・ASEANユースリーダーズサミット 共催
- 2008 外務省JENESYS日中韓青少年交流 運営
- 2009 内閣府「青年国際交流50年既参加青年の集い」に協力
- 2011 東日本大震災にっぽん丸による被災地支援寄港活動への協力
- 2013 一般財団法人へ移行
- 2020 「イスラームを知ろう!」セミナー開始
- 2024 推進センター設立30周年
統計・DX次世代リーダー交流事業 開始
- 2025 「ありがとう。にっぽん丸」クルーズをIYEOと共催実施



1



2



3



4



5

国際理解教育支援プログラム



一般財団法人青少年国際交流推進センターは、2004年度より、日本の教育機関や地域施設等に内閣府青年国際交流事業の参加経験がある在日外国青年等を講師として派遣する「国際理解教育支援プログラム」を実施してきました。国際理解教育に対する熱意を持つ人材を派遣して、国際理解の推進に資することを目的としています。

各機関で実施したいプログラムの内容を交流事業の経験豊富なコーディネーターが丁寧に聞き取り、受講者に最大の学びを提供できるよう、外国人講師の選定や、個々の受講者に合わせた教材や資料を準備しています。過去に本プログラムを実施した機関からのリピート率も高く、これまで96回実施しました。

本号では、2024年10月から2025年3月までに行われたプログラムについて報告します。

先生の感想 茨城県立水戸高等特別支援学校 石川拓也 先生

12月に予定されている台湾への修学旅行に向けた事前授業として、生野朋子先生をお招きし、台湾の文化や言語について学びました。生徒の実態に応じて分かりやすく説明していただき、とても楽しく充実した時間を過ごすことができました。

授業の中では、台湾で使われている言語について詳しく教えていただきました。台湾では主に「中国語（台湾華語）」が公用語として使われていますが、それ以外にも「台湾語」と呼ばれる言葉が日常生活の中で話されています。台湾華語と台湾語の異なる発音やニュアンスを丁寧にわかりやすくご説明いただきました。現地の方々がどのように言語を使い分けているのかを知ることができ、台湾の文化の奥深さを感じることができました。

特に、「你好（ニーハオ）」や「謝謝（シェシェ）」といった台湾華語の基本的な挨拶だけでなく、台湾語の「你好（リーホー）」なども練習しました。先生が分かりやすく教えてくださったおかげで、生徒たちも自信を持って声に出すことができました。このような事前学習を取り入れ、言語を学ぶ機会を与えていただいたことで、生徒たちも現地の方とのコミュニケーションが楽しみになったようです。

また、台湾語を用いたゲームや遊びを通じて数字の学習を体験することもできました。例えば、「竹筍竹筍冒出來（台湾版タケノコタケノコニョッキキ）」では生徒が自然と、数字の数え方を覚え、ゲームを楽しんでいました。最初は戸惑いが見えましたが、すぐに大きな声で台湾語を使い、ゲームで盛り上がることができました。笑顔で台湾のゲームを楽しむ姿が印象的です。こうした活動を通じて、言葉の壁を越えて交流する方法も学ぶことができました。

今回学んだことは、修学旅行で予定されている現地の高校生や大学生との交流に役立つと感じています。台湾語や台湾華語の挨拶を使ってみたり、教わったゲームと一緒に楽しんだりすることで、言葉の壁を乗り越えて心を通わせることができることを期待しています。現地での交流を通じて、すてきな思い出を作っていきたいと思います。



茨城県立水戸高等特別支援学校（生徒に台湾のゲームを教える講師）

■茨城県立並木中等教育学校

日 付	2024年10月26日
担当者	富山正美 先生
対 象	5学年(高校2年生、約150名)
テーマ	Journey ～ディスカッション交流～
プログラム	1. イントロダクション 2. 八つのグループに分かれて自己紹介 3. グループ・ディスカッション(八つのディスカッション・トピックに沿った各国事情を生徒が外国人ディスカッション・パートナーに質問した後、生徒から日本事情をプレゼンテーションする) 4. 外国人から生徒へフィードバック
派遣者	ファシリテーター：芳賀朝子さん ディスカッション・パートナー：Mr. Kouar Aness (アルジェリア)、Mr. Mannuel Wessley Tjahaja (インドネシア)、Mr. Nayebare Stuart (ウガンダ)、Ms. Charleen Lay (オーストラリア)、Ms. Lee Wai Leng (シンガポール)、Mr. Chamal Randunu Amaraweera (スリランカ)、Mr. Matias Rodriguez Gutierrez (チリ)、Mr. Felipe Salgado de Souza (ブラジル)



茨城県立並木中等教育学校(生徒のプレゼンテーションを聞く外国人講師)

■品川区立清水台小学校

日 付	2024年10月29日
担当者	奥苑真由子 先生
対 象	4、5年生(73名)
テーマ	レガシー2020(テーマ：外国の文化を知ろう！)
プログラム	【各クラス】 1. 外国人講師から自国の基本情報・伝統衣装・食文化・挨拶の言葉の紹介、質疑応答 2. 外国人講師の国の遊び等を児童と一緒にやる
派遣者	Ms. Kim Heejin (韓国)、Mr. Shashikamal Kodithuwakku (スリランカ)、Mr. Ratchakith Dhanyajarith-Bhorn (タイ)、Ms. Khin Hnin Wai (ミャンマー)



品川区立清水台小学校(生徒の質問に答えるスリランカ人講師)

■中野区立江古田小学校

日 付	2025年1月10日
担当者	黒川晃文 先生
対 象	6年生(90名)
テーマ	児童と外国人講師による文化紹介・交流
プログラム	1. 外国人講師から自国の基本情報・伝統衣装・食文化・挨拶の言葉の紹介、質疑応答 2. 児童から日本の遊びのプレゼン後、一緒に遊びながら交流
派遣者	Ms.Sarah Mohamed Darwish (エジプト) Mr.Jose Maria Dobon Roux (スペイン)



中野区立江古田小学校(児童から日本の伝統的な遊びを教えもらう外国人講師)

■東京都立立川国際中等教育学校附属小学校

日 付	2025年1月17日
担当者	高橋陽子 先生
対 象	1、2、3年生(205名)
テーマ	多言語教育「マルチリンガルスタディⅢ」(深める)
プログラム	【各クラス】 1. 外国人講師から自国の基本情報・伝統衣装・食文化・挨拶の言葉の紹介、質疑応答 2. 外国人講師の国の踊り等を児童と一緒にやる
派遣者	Mr. Shashikamal Kodithuwakku (スリランカ) Ms. Khin Hnin Wai (ミャンマー)



東京都立立川国際中等教育学校附属小学校(児童に伝統舞踊を教えるミャンマー人講師)

P. 4の写真のキャプション

1. 東京都立立川国際中等教育学校附属小学校 2. 品川区立清水台小学校 3. 中野区立江古田小学校 4. 茨城県立並木中等教育学校
5. 品川区立清水台小学校



カンチャナブリー県の児童養護施設で子供たちと記念撮影

タイ王国・スタディツアー2025

2025年3月17日(月)～25日(火)の日程で「タイ王国・スタディツアー2025」を実施し、参加者10名と同行職員2名の合計12名が参加しました。

このスタディツアーは、タイの児童養護施設3か所を訪れ子供たちの生活環境を知ることと、現地で行われる子供キャンプ「For Hopeful Children Project (FHCP) 2025」にボランティア・スタッフとして参加し、現地の実行委員と協働することを組み合わせた(一財)青少年国際交流推進センター独自のプログラムです。

FHCP とは、内閣府が実施する「東南アジア青年の船」事業のタイ既参加青年ウィスィット・デッカムトーン氏(Mr. Visit Dejkumtorn)が、自身のネットワークをいかして1991年から30年以上にわたり継続されている慈善事業です。孤児や難民、障がいを持っているなど社会的に恵まれない状況にある子供を「希望あふれる子供たち(Hopeful Children)」と呼び、今回は、約900名の「希望あふれる子供たち」をタイ王国海軍施設に招き、海水浴や様々なアクティビティを行いました。

参加者は、FHCPのボランティア・スタッフ約100名と共に運営に参加し、子供たちと共に生活・活動することを通じて、国際協力活動を実践し、国際協調の精神を養いました。FHCP前には、子供たちが生活する児童養護施設3か所を訪問し、子供たちが置かれている状況について理解を深めました。

日程	活動内容
3月17日(月)	バンコク集合
3月18日(火)	子供の村学園ムーンバーンデックでの活動 施設内見学、子供たちと川遊び、交流(折り紙など)
3月19日(水)	タンマヌラックでの活動 ワークショップ参加、子供たちと川遊び、交流(サッカー、バドミントン等)、 子供たちのダンスパフォーマンス、日本参加者パフォーマンス(ソーラン節)
3月20日(木)	FORDEC(フォーデック) 幼稚園での活動 子供たちのダンスパフォーマンス、日本参加者パフォーマンス(ソーラン節)、 交流(折り紙、縄跳び等)、支援家庭(近隣の低所得層家庭)訪問
3月21日(金) ～24日(月)	FHCP(For Hopeful Children Project 2025) 参加 ボランティア・スタッフ・オリエンテーション 開講式、海水浴、ホースセラピー体験、海軍訓練体験、 各参加団体によるブース別ワークショップ、海軍によるドッグショー、 閉会式
3月25日(火)	バンコクにて解散

子供たちと折り紙で交流する



子供たちと川遊び



子供の村学園ムーンバーンデックで子供たちとサッカーで交流





近隣の低所得層家庭を訪問



FHCPにて海軍施設での海水浴



FHCPにて海軍訓練（飛び降り演習）体験



FHCPにてホースセラピー体験

参加者の感想（一部抜粋）



タイ王国・スタディツアー 2025 参加者

吉田 蘭

■自分を変えたくて

私はこれまでボランティア経験がなく、孤児についてもよく知らなかった。社会問題への関心も薄く、毎日の遊びと目の前のやることに追われていた。だからこそ、「こんな自分を変えたい」そのために「何か人の役に立つ何かをしてみたい」と思い立ち、このスタディツアーに参加した。

■奪い合えば足りず、分け合えば余る

ボランティア活動参加中は2つの孤児院とスラム街にある1つの幼稚園を訪れた。食事の時間になると子供たちは、率先して私たちに先に食事をふるまおうとしたり、先生からお菓子をもらおうと、私たちにも分けてくれたりするなど、喜びをシェアしてくれた。「思いやりを大切にしよう」という表面的な言葉だけでは伝わらない、子供たちなりの思いを態度で示してくれた。「奪い合えば足りず、分け合えば余る」ということわざの通り、私は多くの優しさを教わった。

■優しさをシェアする世界へ

改めて私は何も知らなかったのだなと考えさせられた。もちろん、子供たちにもそれぞれに人生観はあるだろうし、今の環境を幸せだと思っているかどうかは分からない。しかし、太陽のような笑顔で元気はつらつと遊ぶ姿は私の目にはまさに「Hopeful Children」を体現しているように映った。同時に、社会的には弱者と位置付けられるはずの子供たちが、とてもたくましく見えた。世界には、様々な事情を抱えながら懸命に生きている子供たちがたくさんいる。私はそれを教科書やテレビでしか知らなかったが、リアルに知ることができた今回のボランティア活動は、一生涯忘れることのできない貴重な経験となった。そして、優しさをシェアし、奪い合いではなく分かち合うことによって幸せな世界を実現できるような仕事に従事したいと思うようになった。今後もこの気持ちを忘れることなく、社会貢献できる大人になれるよう、日々過ごしていきたい。



イスラームを知ろう！ ～UAE現地体験スタディツアー～



カスルアルワタン(大統領官邸内迎賓館)

一般財団法人青少年国際交流推進センターは、イスラームへの理解を深め、より身近に感じられることを目的に「イスラームを知ろう！」と題するセミナー等をこれまでに15回、UAE現地体験モニターツアーを1回開催し、ついに、満を持して「イスラームを知ろう！～UAE現地体験スタディツアー～」を2025年4月25日(金)～4月30日(水)に実施することができました。

このスタディツアーは、イスラームの正しい理解と交流を目的とし、アラブ首長国連邦(UAE)在住のハムダなおこさんと一緒にUAEを巡るものです。UAE建国の父の名に由来するシェイク・ザイード・グランド・モスク訪問、UAE最高学府の大学訪問、広大な砂漠や山岳地帯見学、現地学生との交流、伝統衣装や家庭訪問、7つの首長国のうち3～4か所を訪れ、一般の観光旅行では訪れることのできない場所を訪問し体験することで、イスラームへの理解を深めることができました。



ハムダなおこ氏によるシャルジャイスラーム文明科学博物館説明ツアー



亀井謙一郎準教授の案内で最先端の教育体制が整ったNew York Universityアブダビ校を視察する

日程	活動内容
4/25(金)	到着オリエンテーション 夕食会(Dar Halabi Restaurant at Mall of Emirates)
4/26(土)	シャルジャイスラーム文明科学博物館 日本UAE文化センター日本語学習者との交流 ホームビジット
4/27(日)	Khor Fakkan 要塞見学 Khor Fakkan Waterfall見学 Al Bidya Mosque見学
4/28(月)	JETRO訪問 Al Farook Mosque訪問 ゴールドスーク、スパイススーク、アブラ乗船など自由行動
4/29(火)	New York Universityアブダビ校訪問 大統領官邸内迎賓館(カスルワルアタン)訪問 シェイク・ザイード・グランド・モスク訪問
4/30(水)	カリグラフィー体験 Space Centre訪問 ドバイモール内にてフリータイム 夕食会

Mohammed Bin Rashid Space Centre(宇宙航空局)にてMr. Rashed Ibrahim Bumelhaの案内で急速に発展しているUAEの宇宙事業の開発現場を視察する





イスラームを知ろう！

～“イスラームが誇る美術に触れる” アラビア語書道体験～

2025年8月2日(土)、アラビア語書家の佐川信子氏をお迎えし、イスラームを知ろう！～“イスラームが誇る美術に触れる” アラビア語書道体験～を開催しました。当日は10名の方が参加し、アラビア語書道の歴史や書体の話を聴いた後、竹を削った独特のペンを用いて文字を書き、アラビア語書道の芸術を体験しました。



佐川氏による竹ペンづくりの実演



濡らした絹糸に墨汁を混ぜてアラビア語書道用の「墨」を作成



アラビア語書道専用の紙を用いて本格的な書道を体験

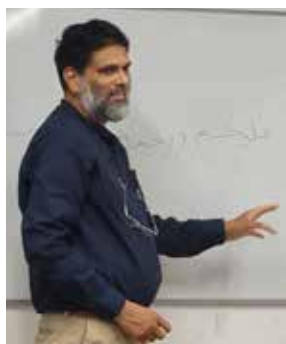


参加者一人一人にアドバイスする佐川氏

イスラームを知ろう！ ～ムスリムってなに？

マスジド大塚で出会う人と暮らし「モスク見学/炊き出し支援」～

2025年8月23日(土)、東京都豊島区のマスジド大塚にて、日本イスラム文化センター／マスジド大塚事務局長のクレイシ・ハールーン氏から、マスジド大塚がこれまで行ってきた活動やその活動が地域に根付くまでの苦労、今後の展望についてお話いただきました。また、マスジド大塚見学や炊き出し支援用のお弁当を詰めるボランティアを実施しました。



アラビア語の挨拶について説明するクレイシ・ハールーン氏



ホームレス支援のために毎月行っている炊き出しのお手伝いとしてピリヤニのお弁当詰め作業を行う



クレイシ・ハールーン氏と参加者



国際交流リーダー養成セミナー「違いを楽しむ」から始まる共創： インクルーシブな国際交流の場づくり



講師の紹介

品川優氏

多様性・公平性・インクルージョン (DEI) の専門家。2019年にAn Nahalを創業し、これまで約50か国、8000人に対し研修を実施。世界銀行や難民就労支援 NPOでの経験を活かし、企業へのDEIコンサルティングや外国人起業支援を行う。双方向・実践型のファシリテーションで「違いを力に変える」インクルーシブリーダー育成を軸としたプログラムを数多く提供。

内閣府主催第22回「世界青年の船」事業参加青年。

2025年6月28日(土)、多様性・公平性・インクルージョン (DEI) の専門家である品川優氏を講師にお迎えし、13名(現地9名、オンライン4名)の参加を得て「『違いを楽しむ』から始まる共創：インクルーシブな国際交流の場づくり」を開催しました。

参加者は、アンコンシャス・バイアス「無意識の思い込み、偏見」が存在する中であっても、国際交流の場を創る人たちにとってフェアな対応や運営を実現していくことがいかに重要であるかを学びました。

また、グループワークでは、インクルーシブな場とはどんなものなのか、どのような工夫が必要なのか、意見交換を行いました。その後、問題発生 の事例を題材に、運営側が何に配慮すべきなのかを考え、「アクティブバイスタンダー」(行動する傍観者)として、問題が生じたときに対処できる仕組みを作っておくことの大切さを理解しました。

今回のセミナーでは、午前の講義は対面とオンラインのハイブリッドで行い、午後のワークは対面参加者のみで実施しました。ランチ交流会や休憩時間にも参加者が品川氏に積極的に質問したり、初対面にもかかわらず参加者同士で熱心に情報交換したりするなど、参加者にとって有意義な時間となりました。



グループで出し合った意見を発表し、講師からのフィードバックを聞く参加者



2025年度 統計・DX次世代リーダー交流事業 NextStatX2025

2025年6月1日(日)～6月14日(土)、昨年に続き「統計・DX次世代リーダー交流事業」を公益財団法人情報研究センター(以下、シンフォニカ)と一般財団法人青少年国際交流推進センター(以下、推進センター)にて共催し、8名の研修生を受け入れました。招聘対象者は、ラトビア中央統計局からの2名の統計職員に加え、統計・データサイエンス・DX・ITに興味を持つラトビア共和国青年で、参加者募集や万博見学をはじめとした大阪プログラム作成にあたり、関西日本ラトビア協会に格別の御協力をいただきました。

■ラトビア青年を招聘

本事業は、ITスタートアップが多く育ち、DX分野においても先進的なラトビア共和国の青年を日本に招聘し、統計やデータサイエンス、DXなどに関する互いの国の取組みについて情報交換及び討議することで、統計やDXなどの分野における両国の発展に寄与することを目的としています。また、地域の人々との交流や文化体験を通じて日本への理解を深め、将来にわたってラトビアと日本のかけ橋として指導性を発揮できる青年を育成することを目指しています。



立正大学熊谷キャンパスにて学生によるポスターセッションに興味深く見るラトビア青年

年月日	会場	研修内容
6月3日 火	都市センターホテル	イントロダクション、開講式、歓迎昼食会、オリエンテーション、 講義 開講式・記念撮影 シンフォニカ主催歓迎昼食会 オリエンテーション 講義(DXと将来に向けた情報通信) 政府統計概論
6月4日 水	総務省統計局	総務省大臣官房審議官表敬、講義、昼食交流会、 統計博物館見学 統計局の概要 e-Statの概要 昼食交流会 統計博物館見学
	デジタル庁	デジタル審議官表敬、講義、施設内見学 講義(デジタル改革共創プラットフォームについて) デジタル庁内見学
6月5日 木	立正大学 熊谷キャンパス	データサイエンス学部紹介、施設見学、授業見学、学部長挨拶、 ポスターセッション、講義 キャンパス見学並びに授業見学 データサイエンス学部長歓迎挨拶 ポスターセッション
	すみれ食堂	昼食交流会
	立正大学	授業見学(インターネットデータ収集技術) 講義(気象観測衛星ひまわりのデータの可視化)
6月6日 金		自由時間
6月7日 土		都内体験プログラム
6月8日 日	移動(新幹線)	東京都→大阪府
	在大阪ラトビア共和国 名誉領事館	在大阪ラトビア共和国名誉領事表敬
	ホテルモントレ大阪	関西日本ラトビア協会との交流夕食会
6月9日 月	大阪市	大阪 文化・歴史見学 (あべのハリカス、大阪城) NEC Future Creation Hub Kansai見学
6月10日 火	大阪市	大阪万博見学
6月11日 水	奈良県	奈良 文化・歴史見学 (東大寺) 大和ハウスグループみらい価値共創センター「コトクリエ」見学 昼食(「コトクリエ」内) 大和ハウス工業株式会社 奈良工場見学
6月12日 木	奈良県	大和ハウス総合技術研究所・石橋信夫記念館
	移動	京都府→東京都
	都市センターホテル	推進センター主催夕食交流会(駐日ラトビア共和国特命全権大使、 在大阪ラトビア共和国名誉領事 臨席)
6月13日 金	都市センターホテル	成果発表会、修了式、送別昼食会



大和ハウス工業(株)奈良工場見学



関西日本ラトビア協会との夕食会



風鈴作りを体験するラトビア青年

■統計・DXへの取組みを学ぶ

今回も、総務省統計局・デジタル庁での表敬並びに講義受講、ダイワハウス工業グループ・NEC等企業の各施設の視察、立正大学データサイエンス学部学生との交流等、日本における統計・DXへの取組みを官民学のそれぞれの視点で学習する機会となりました。また、大坂・京都・奈良・名古屋での文化・歴史施設見学、更には大阪万博見学を通して、日本の文化をより深く学ぶ機会も得ました。

最終日前夜には、推進センター主催で夕食交流会を実施。ズィルガルヴィス駐日ラトビア共和国特命全権大使、石橋民生在大阪ラトビア共和国名誉領事、関西日本ラトビア協会幹部、日本青年国際交流機構(IYEO)顧問各位に来賓として臨席いただきました。研修生からは感謝の意を表する歌の披露もあり、非常に和やかかつ華やかだ交流の場所となりました。



シンフォニカ統計職員招聘事業 運営支援

公益財団法人統計情報研究開発センター(以下シンフォニカ)は、アジア・アフリカ諸国の統計職員(公的統計の企画、データ収集・処理・分析・提供に従事する中堅職員)を日本に招聘し、日本の公的統計システムの視察・学習を通じて、研修生自国の公的統計発達に貢献することを目的とした事業を2018年より実施しています。(一財)青少年国際交流推進センター(以下、推進センター)は2023年アセアン・南アジア統計職員招聘事業より運営支援として参画しています。

■第3回 アフリカ諸国統計職員招聘事業(金丸三郎記念国際交流事業)

2025年4月14日(月)~4月26日(土)、アフリカ13か国(カメルーン、エジプト、エスワティニ、エチオピア、ガーナ、マラウイ、モーリシャス、ナイジェリア、ルワンダ、セーシャル、タンザニア(本土)、タンザニア(ザンジバル)、ザンビア)から14名の研修生が訪れ、東京、京都、奈良、名古屋にて、統計関係情報講座、表敬訪問、関連施設視察等を行いました。

■第5回 アセアン・南アジア諸国統計職員招聘事業(石橋信夫記念国際交流事業)

2025年8月25日(月)~9月12日(金)、アセアン・南アジア諸国の14か国(バングラデッシュ、ブルネイ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、モルディブ、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナム)から14名の研修生が訪れ、東京、千葉、京都、奈良、名古屋にて各種研修を行いました。

青少年国際交流全国フォーラム

各地域における事後活動の推進状況を報告するとともに、既参加青年等の全国的なネットワークの構築など事後活動を更に充実させるための方策について意見交換を行う年に一度のフォーラムです。この大会は日本青年国際交流機構全国大会及び青少年国際交流事業事後活動推進大会と併せて開催されています。

第31回青少年国際交流全国フォーラムの開催

令和6年11月9日～10日、全国から内閣府及び地方公共団体等が行う青少年国際交流事業の既参加青年等180名を超える方々が山梨県富士吉田市に集い、事業に参加した青年による報告、山梨県IYEOの活動報告、懇親意見交換会、地域理解研修オプショナルツアーなどを通して、各地域における事後活動の推進状況について情報交換を行いました。



事業参加報告会



懇親意見交換会



ソーシャルハウス「宝島」ツアー(地域理解研修)

第32回青少年国際交流全国フォーラムの開催

令和7年11月日、全国から内閣府及び地方公共団体等が行う青少年国際交流事業の既参加青年等155名を超える方々が青森県青森市に集い、事業に参加した青年による報告、青森で活動する高校生や地元の青少年団体の皆さまによる5分間ピッチ「Next Local Heroes－未来を拓く5分間」、懇親意見交換会などを通して、全国における事後活動の推進状況について報告および意見交換を行いました。



青森で活動する高校生によるピッチ



事業参加者による報告



お祭りの体験

青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい(ブロックイベント)

このイベントは、全国の4ブロックで、内閣府及び地方公共団体が行う青少年国際交流事業の既参加青年、国際交流に関心のある青少年等が、事後活動に関する情報交換や地域、職域の特色をいかした事後活動について意見交換を行うもので、令和4年度より第1部を内閣府とIYEO共催、第2部をIYEOと(一財)青少年国際交流推進センターが共催する2部制の形式で実施しています。令和6及び7年度については、4ブロックの主催県IYEOがブロックイベント第2部を(一財)青少年国際交流推進センターと共催しました。

令和6年度実績

ブロック	開催県	日付	開催方法	内容
関東 (全国大会)	山梨県	11月9日、10日	ハイブリッド	事業参加報告会・活動報告、懇親意見交換会、地域理解研修オプショナルツアー(①「富士山ツアー」②ソーシャルハウス「宝島」ツアー)
北信越	長野県	R7年3月2日	対面	事業参加報告、長野県青年国際交流機構活動報告、まとめのカフェ交流会
近畿	兵庫県	R7年1月18日	対面	ドリームピッチコンテスト、表彰式、予祝(よしゅく) みんなで踊ろう!、講評、懇親意見交換会
四国	香川県	9月7日	ハイブリッド	国際交流活動等の経験の発表と意見交換「多様な国際経験を語り合う」、地域理解研修(「日本の文化を探究する ノスタルジックな仏生山散策～素晴らしき自国文化の再確認～」)

ブロック	開催県	日付	開催方法	内容
北海道・東北 (全国大会)	青森県	10月25日	ハイブリッド	事業参加報告、「Next Local Heroes－未来を拓く5分間」、 懇親意見交換会(北海道・東北7魂祭)
関東	東京都	R8年3月14日	対面	調整中
東海	静岡県	7月5日	対面	事業参加報告、講演、トークフォークダンス、懇親意見交換会
中国	広島県	12月13日	対面	ティーアンドダイアログ、懇親意見交換会

都道府県会員と(一財)青少年国際交流推進センターの 共同主催事業

内閣府主催のブロックイベントの年間の開催数が減少したため、団体会員であるIYEOが自主開催をしたブロックイベントを(一財)青少年国際交流推進センターが共同主催しました。

ブロック	開催県	日付	内容
中国	山口県	R6年10月26日	中国ブロック自主イベント
東海	愛知県	R7年2月10日	東海チャレンジャーズサミット
東海	愛知県	R8年3月22日	東海チャレンジャーズサミット

内閣府の実施する青年国際交流事業への協力

(一財)青少年国際交流推進センターは、内閣府との契約により、令和6年度は以下の5つの交流事業及び青少年国際交流事業の活動充実強化に関する支援業務を実施しました。

- 国際社会青年育成事業(日本青年海外派遣(9/21-30)／外国青年招へい(9/25-10/5))
- 日本・中国青年親善交流事業(日本青年中国派遣(11/19-23)／中国青年日本招へい(11/24-28))
- 日本・韓国青年親善交流事業(日本青年韓国派遣(11/22-30)／韓国青年日本招へい(11/1-9))
- 「東南アジア青年の船」事業(日本国内活動(11/4-7, 12/6-11)／運航(11/7-12/6))
- 「世界青年の船」事業(日本国内活動(R7 1/24-2/21))



国際社会青年育成事業外国青年招へい(R7年度)



「世界青年の船」事業(日本国内活動(R6年度))



日本・中国青年親善交流事業(R6年度)

今月の表紙

青少年国際交流スタディツアー「タイ王国・スタディツアー」で訪れたカーンチャナブリー県の児童養護施設ムーンバーンデッキにて、訪問した日本からの参加者が施設の子供たちとお別れの挨拶をしているところ。



MACROCOSM 1月号 vol.135

2026年1月31日発行

編集 マクロコズム編集委員会

発行 一般財団法人 青少年国際交流推進センター
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町
2-35-14 東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centrye.org/> (CENTERYE)

<https://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 日本青年国際交流機構 (IYEO)

定価 215円 [本体195円]

印刷所 株式会社シナノパブリッシングプレス

TEL: 03-5911-3355 FAX: 03-5911-3356



その瞬間のために。

わたしたちは、そばで見えてきた。
その瞬間のために、続けた努力を、
流した汗も涙も。
その瞬間のために、かけた思いを、
送った言葉も。
わたしたちは、実らせたい。
その努力のために、
その思いのために、
その瞬間のために。

 東武トップツアーズ

東武トップツアーズ株式会社 官公庁事業部

〒108-0075 東京都港区港南 1-8-15 Wビル 18階 TEL 050-9014-8423 FAX 03-6279-2430



思いは、大海原の彼方へ。

憧れていたあの島へ、小説で読んだあの渚へ、思い出のあの港街へ。
お客様の思いを乗せて、美しい海へと旅をする、MITSUI OCEAN CRUISE。
スタッフの笑顔と、おいしいお料理、エンターテイメントでおもてなしします。

○詳しいパンフレットをご用意しています。最寄りの旅行会社または、下記へお問い合わせください。※営業日・営業時間は変更・短縮、もしくは延長される場合があります。

商船三井クルーズ ☎0120-791-211 〒100-0013 東京都千代田区森が関3丁目8-1 虎ノ門ダイビルイースト6階
<https://www.mitsuioceancruises.com/>